9 卵塔（乾の大墓）

永源寺の裏山にある。土佐藩家老、乾一家の墓地。卵塔は梵語を出所とした石塔のこと。乾家二代目彦作和成の頃、造成が実施に移された。

中央の大形卵塔二基は初代夫婦のもの。両側の小形のものは向かって右側が和三の母親、左側が三男のものである。

卵塔（大墓）は五代目までのもので、その他はずっと小形である。なお、二代目、四代目の墓には妻のものはない。墓域は約330坪（1000平方メートル）あり、権勢の跡を偲ばせる。

10 比江山城跡と比江山神社

比江山城は元亀の頃長宗我部氏が本城の出城として築いたもの。最後の城主は比江山掃部介親興である。長宗我部氏本城移動で廃城となった。現在の比江山神社のあるところが天守であったといわれる。

今は、南の隅に土塁が残るだけである。この城には哀話がある。長宗我部氏後継問題により、掃部介親興の自刃後、この城に居た親興の妻子が城を出て災難を逃れようと東方に走った。しかし、捕らえられ、幼子も妻女も無残に処刑されてしまった。かれらの怨霊の話が伝わっていた。比江山神社は鎮魂のため345年後に造営されたものである。恒例の大祭は4月、10月である。

11 阿波塚

比江山続きの丘陵地（平曽）、旧本山街道の側にある古堂が阿波塚である。

長宗我部氏七代兼光の頃、北方豊永の豪族小笠原左近太夫の侵攻があり、激戦となった。長宗我部軍は八幡宮の加護で劣勢から勝利をつかんだ。丘陵地（平曽）での戦いは激烈で小笠原方の阿波兵は多数の死者を出した。これを埋葬し、阿波塚と呼んだ。だが、塚では色々な異変が起こったので祠堂を建て調伏をはかったという。

12 地蔵渡し

国分川に国分橋が架かったのは明治30年。それまでの交通路であったのが地蔵渡しである。南岸は遍路道とつながっていて遍路の道標的存在であった地蔵である。地蔵には文化7年の刻字がある。

長い間野ざらしであったが、昭和60年代に信心深い人によってお堂が建てられ、さらに平成16年に現在のお堂に改修された。あたりには、「マチ」「マチガシラ」「イチバ」「ヒガシフルイチ」「ニシフルイチ」などのホノギ（地名）が残っている。「四国のみち」の標柱も立っている。

ごあんない地図

❶国司館跡　❷古今集の庭　❸国庁跡（国衙跡）
❹比江廃寺跡　❺国分寺　❻総社
❼日吉神社　❽永源寺　❾卵塔（乾の大墓）
❿比江山城跡と比江山神社　⓫阿波塚
⓬地蔵渡し

■お問い合わせは
国府史跡保存会

国府史跡リーフレット

1 国司館跡（紀貫之邸跡）

奈良時代より平安時代まで数百年間の国司官舎の跡。

歴代国司の中で紀貫之は、古今集選者、土佐日記作者として知られ、貫之を偲ぶ6基の碑（紀子旧跡碑、千載不朽碑、同副碑、土佐日記の碑、月字の碑、高浜虚子句碑）が建てられている。館跡からは、西に国分寺、五台山を望むことができる。館跡では、毎年「土佐日記門出のまつり」が行われ、史跡に学び、古人の徳を偲ぶ集いとなっている。

2 古今集の庭

延喜5年（西暦905年）醍醐天皇の勅で紀貫之を中心とした選者4名により編纂され、1,111首の秀逸した作品からなり日本人の詩的感性の世界を示している。貫之は第48代国司として4年余りこの地で過ごしその帰任の際有名な「土佐日記」を記している。この貫之の業績とその顕彰に因んで「古今集の庭」と名付け、地域に相応しい平安時代をモチーフに曲水などを配し、古今集の和歌32首を掲示し、その草木を植えたコーナーを設け、また国衙の地を示す「国府の碑」も建っている。

平成13年9月南国市の施設として落成し、この歴史の里の中核的な役割を担っている。

3 国庁跡（国衙跡）

土佐の都が置かれた（文献には天平15年西暦743年初出）ところ。

国庁の広さは六丁四方、四丁四方の二説がある。現在発掘調査継続中で位置の確定はされていない。昭和38年7月県指定の史跡となり「土佐国衙跡」の標柱が建てられた。標柱が建つ土地の名は、国庁であり、あたりにはクゲ、内日吉、府中、神ノ木戸、神ノ木、直道、内裏などの名があり、古くから伝えられてきている。あたりはイチゴ、きゅうりのハウスが並んでいる。

4 比江廃寺跡

白鳳時代に法隆寺と同形式の寺院があった。その寺院の塔の礎石が残っている。 巨大な礎石（心礎）の中央に直径81センチの柱穴、その中心に直径15センチの舎利孔がある。塔は五重のものと推定されている。礎石（心礎）のあるところに隣接したところからは10万点にのぼる瓦（中心は複弁八葉蓮花文軒丸瓦と忍冬唐草文軒平瓦）が発掘されている。礎石（心礎）のある土地名は「土居屋敷」国に指定された県下唯一の塔の史跡である。

5 国分寺

創建（僧行基による）は天平13年（西暦741年）前後。開山後約70年、弘法大師空海の中興により四国八十八ケ所第29番札所となる。創建当時の土累（土壇）が残っている。

金堂（本堂）は長宗我部氏、山内氏の保護を受け、戦後国の重要文化財指定、寄棟こけら葺き。本尊は千手観音（行基作）。本堂左に大師堂、右に大書院、山門への参道脇に鐘楼、開山堂がある。中門の内は句碑（高浜年尾、高木晴子）・歌碑（朝吹磯子）の庭といわれる。この庭に面して光明殿（回向、護摩堂）、納経所がある。大書院の庭に塔礎石（心礎）が見られる。寺には国の重要文化財指定の創建時代の梵鐘、薬師如来立像二体、県文化財指定本尊の厨子、須弥壇および絹本著色両界曼荼羅など、多くの文化財があり、拝観できる。

6 総社

この社は延喜式所載の土佐の国二十一社（安芸三社、香美四社、長岡五社、土佐五社、吾川一社、幡多三社）が集められたものである。

土佐の国に着任した国司は国内の二十一社に国土安寧五穀豊饒を祈り巡拝した。しかし、巡拝が困難となったため国庁所在地にまとめ勧請したものが総社である。創建の年代は不詳だが、当初は比江国庁の西、現在のホノギ「総社」にあったようである。長宗我部時代末期に国分寺鎮守として建立。後寛文九年山内豊昌により現在地に移築された。

7 日吉神社（通称ひよし様。正式は日吉（ひえ）神社）

古代、近江坂本に総本社のある日吉大社から勧請されたもの。祭神は大山昨命で土地の名、比江はこれに由来するとの説もある。

この神社には「内日吉」としての神様も祭っている。「内日吉」は貫之が帰るとき、側近の公文職が乞い請け自宅近くに移し祭ってきたものである。公文氏一族は千年後の今日まで祭事を続けている。祭りは毎年旧暦八月朔日に「はっさくのまつり」を営む。

8 永源寺

住古、観音寺と称し国庁鬼門除けの寺。

山内一豊氏入国時代より家老乾備後和三の領地となって観音寺を廃し、「古峰山乾流寺」と称す。宝永五年の火災で類焼、翌六年永源寺と改め再建。本尊は聖観音、土佐国三十三観音第十一番霊場。境内に二堂あり、勢至菩薩と薬師如来が祀られている。越前永平寺の末寺、曹洞宗の禅寺。近時参禅修行者が多い。寺からは国庁跡、紀貫之邸跡、国分寺、国分川、岡豊山などが望め、「土佐のまほろば」を思いやることができる。秋には境内のイチョウが美しい。